



日本プライマリ・ケア連合学会
中部ブロック支部



発行人：佐藤 寿一
事務局 〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65
名古屋大学医学部附属病院総合診療科 内
Tel.052-744-2951 Fax. 052-744-2951

ニュースレター No.44(2023.12) 本号の編集担当者 井上真智子

【支部情報】

予定

1) 『中部ブロックポータル発表会*2024』

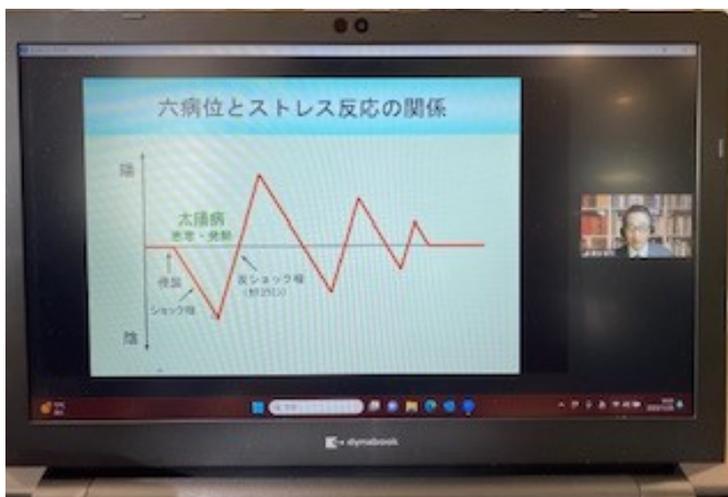
2024年3月2日(土)

報告

1) 『第12回日本プライマリ・ケア連合学会中部ブロック学術集会』

2023年11月26日(日) 会場：名古屋大学医学部鶴友会館およびZOOMによるハイブリッド開催

新型コロナウイルスが5類になってから初の学術集会で、現地(19名参加)+オンライン(83名参加)のハイブリッド開催となりました。参加者の2割は薬剤師の先生方でした。一般演題は3題で、診断に難渋した全身性アミロイドシスの事例、看護師による在宅診療での Shared decision making の実践、多職種協同による統合医療の有効性の研究を各先生方にご発表いただきました。教育講演では辻仲病院 喜多 敏明先生より「プライマリ・ケア医のための漢方学習法」と題してご講演いただきました。漢方の「証」を見極めるために、気血水、虚実・寒熱、陰陽・六病位の3種類の色メガネを使いわけることが大切であることを教えていただきました。初学者にとっても理解でき、参加者からは漢方を診療にとりいれたいといったご意見がございました。



シンポジウムでは「マインドフルネス」をテーマに総論を人間環境大学 伊藤 義徳先生に、診療での応用を横井 医院 嶋 芳成先生に、研究事例を松久医院の 松久 貴晴先生にご講演いただきました。マインドフルネスは瞑想をすることで脱中心化することで自身の「気づき」をえることが重要であることを学びました。またシンポジウムの中で瞑想を体験するコーナーもあり、参加者自身がセルフ・コンパッションすることができました。普段の診療にマインドフルネスを取り入れたいという参加者のご意見を多数みうけられました。

文責 中部ブロック支部学術集会実行委員長 安藤友一(名古屋大学総合診療科)



●静岡支部

【活動報告】

1) 第20回しろわカフェ開催（御前崎市家庭医療センターしろわクリニック）（2023年10月19日(木)）

しろわカフェは市民公開講座です。

今回のテーマは「電子力防災どこでも出前講座」でした。

しろわクリニックのある静岡県御前崎市には浜岡原子力発電所があります。

原子力災害が発生した際に備え、御前崎市危機管理課の方に避難行動に関する説明をしていただきました。

原子力災害が発生した際の広域避難の基本について学びました。

- ① 正しい情報の入手…国⇒静岡県⇒御前崎市 デマ情報に注意
- ② 避難指示がでたときは?…御前崎市からの指示により避難を開始、原則は自家用車避難、自家用車で避難が出来ない方はバスで避難
- ③ 避難先は?…避難退域時検査場所を経由して避難経路所へ。浜松市または長野県へ避難。
- ④ 非常用持出し品…安定ヨウ素剤以外は自然災害と同じ。市からの指示に従い安定ヨウ素剤の服用。

SNSの情報は便利な点もありますが、デマも多く見受けられます。市の指示に従い行動する事が重要です。

定期的に防災訓練をすることの大切さを学びました。

第20回しろわかフェ

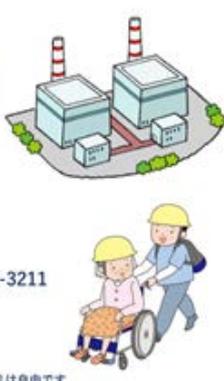
**原子力防災
どこでも出前講座**

日時：10月19日(木)
14:00-15:00

開催場所：しろわクリニック
御前崎市白羽3521-10 TEL: 0548-23-3211

担当講師：御前崎市危機管理課

参加費：無料



*出入りは自由です
*当日は写真、録音をとらせていただきます。
*活動の様子をSNS等に紹介させていただきます。



2) 地域包括ケア推進支援活動 講演会開催(菊川市家庭医療センター)

- ・訪問看護ステーション大東 家族会 @静岡県掛川市 (2023年10月28日(土))
- ・静岡県看護協会 中東遠地区支部 地域講演 @静岡県御前崎市 (2023年11月11日(土))
- ・在宅重症心身障害児者対応多職種連携研修 @静岡県袋井市 (2023年11月25日(土))
- ・静岡県看護協会 高齢者権利擁護等推進事業 看護実務者研修 @静岡県静岡市 (2023年12月9日(土))
- ・藤の花かんかんねっと主催研修会 @静岡県藤枝市 (2023年12月17日(日))

各所よりご依頼をいただき、センター長の松田真和医師が講演されました。

地域包括ケア推進支援活動の一環として開催された研修会や地域講演会の中で、「自分らしく生きるために」や「高齢者と認知症高齢者の心身の理解」等のテーマでお話し、参加された皆さまの知識を深めていただくことができました。



**菊川市
家庭医療センター**

あかっちクリニック



**菊川市立
総合病院**



菊川市マスコットキャラクター
きくのみん

菊川市では、例年 きくがわ医療・介護連携多職種研修会を開催しており、当院 医師等も参加しております。

地域包括ケアシステムの深化・推進を目指し、医療機関、介護事業所などの専門職を対象とした「多職種研修会」を重ね、専門職同士の顔の見える関係・ネットワークの構築をより深めております。

11月2日(木)には、近隣の訪問看護ステーションが抱える「患者に関する悩み」について実患者を例に挙げ、どう対応すればよいか検討を行いました。

今回のテーマ：「内服薬の過剰服用や飲み忘れ」「家族の協力を得るには」等

3) 家庭医療指導医向けレクチャー「医師のウェルネスと燃え尽き防止」開催 (2023年11月30日(木))

米国ロチェスター大学家庭医療科准教授の貝塚幸子先生(浜松医大卒)がお越しくださり、静岡家庭医養成プログラムの指導医、専攻医、初期研修医、学生を対象にスペシャルレクチャーを行っていただきました。

テーマ「Biopsychosocial Approach による Family System Practicum、医師の燃え尽き防止～人間工学の観点から～」

ロチェスター大学の家庭医療プログラムでは行動科学のブロック研修があり、源家族の家族図をもとに自己理解を深めるワークなど省察を深めるトレーニングが行われています。また、燃え尽きの予防には、人間工学を用いて認知負荷を節約する方法がとられているなど、興味深いお話をお伺いしました。



●三重支部

【活動報告】

1) 総合診療 虎の穴 巻之貳拾巻 開催

Generalist Skills-01

日時：2023年9月30日（土）13:00～

場所：三重大学医学部附属病院 外来棟5階ホール

演者・演目：

「プライマリ・ケア医のための表在性外傷の診かた」 堀端謙（亀山市立医療センター）

「とことんロールプレイ！身体で覚える「行動変容」！～これで明日から自由自在！？～」

森洋平（みたき総合病院）



2) 学生向けミニレクチャー 開催

日時：2023年10月12日（木）18:30～20:00

場所：オンライン

講師：紀宝町立相野谷診療所 所長 森本真之助先生

演題：『地域医療では何を身につけられるか？-紀宝町地域医療研修センターの紹介-』

【今後の予定】

1) 第3回 三重大学総合診療フォーラム 開催予定

テーマ「地域医療実習を本当に参加型にするには」

日時：2023年12月9日（土）14:00-18:10（開場13:30） 18:45～懇親会

場所：三重大学三翠ホール（小ホール） ※懇親会は三重大学地域共創プラザで開催

内容：＜現場レポート＞～地域医療/総合診療実習の学び、課題、要望、学生目線より～

東海地方の各大学の地域医療実習について

＜特別講演＞ 演者：吉村学先生（宮崎大学医学部 地域医療・総合診療医学講座 教授）

座長：山本憲彦先生（三重大学医学部附属病院総合診療部 教授）

＜グループワーク＞ 講師：後藤道子先生（三重大学医学部附属病院総合診療部 講師）

●福井支部

【活動報告】

＜井出広幸先生来福！心療内科セミナー開催！！＞

信愛クリニック理事長・大船心療内科院長の井出広幸先生をお招きし、専攻医・スタッフ向けにご講演いただきました。専攻医の私は、ここ最近外来で精神疾患をお持ちの患者様を診察することが多くなってきており、どう向き合えばいいか迷っていたので、PIP（Psychiatry In Primary Care）に関してどんなお話がお聞きできるか楽しみにしていました。

はじめにプライマリ・ケアの心療現場で使うツールである MAPSO 問診（Mood, Anxiety, Psychoses, Substance-related, Others）に関してご講演いただきました。MAPSO 問診を行う目的はなんでしょうか？「本気度」によって違くと井出先生はおっしゃいます。軽めに向き合うなら、自身の外来で抗うつ薬を処方するべきか、精神科に紹介すべきかを見極める。しっかり向き合うなら、非薬物療法も視野に入れて助ける手がかりを探す。本気で向き合うなら、全部自分で診る（！）という目的です。自分の診療を振り返ると、今は見極めも満足にできていない現状なのでまずはそこから始めてみようと思いました。「MAPSO 問診によって、内服加療適応の判断ができる！」とのお言葉には会場からも納得の声があがりました。

次のテーマはトラウマについてでした。「心の傷は全人類が持っている」と先生はおっしゃいます。「え、そうなの！」と目から鱗でした。誰でも大なり小なり心の傷を抱えていて、その一部に DTD（Developmental Traumatic Disorder）、PTSD などが隠れているのです。その心の傷を特定することが診療の第一歩であり、米国で行われた ACE 研究からは、子供時代にトラウマを受けた人ほど、大人になって病気になりやすいことがわかってきました。幼少期からの心のケアを行うことが、病気の予防にもつながるという事実には衝撃を受けました。トラウマケアの具体的方法までご教授いただき、心療内科の深みを垣間見る思いでした。

最後に、診療では一人の人間としての患者さんに向き合い、「何とかしよう」とし続けることが治療にも患者様の満足度にもつながる。だから、向き合い方が重要というお話に感銘を受けました。

ご講演のあとは懇親会では、医局員から先生への診療に関する質問、時にはプライベートな相談まで、食事を囲みながら、終始お話が尽きませんでした。診療現場に限らない先生の人との向き合い方、例えば必ず相手の名前を呼ぶこと、アドバイスする際はまず褒めて始めていることに気付き、真似していきたく感じました。



<北陸総合診療懇話会／総合診療ってこんな会開催！！>

9月30日(土)に、午前は家庭医療に興味のある学生・研修医中心の総合診療ってこんな会、午後は第18回北陸総合診療懇話会を開催しました。

総合診療ってこんな会は久しぶりの現地開催でした。専攻医の熱い想いのあふれる魅力あるスライドから始まり、学生さんたちの気持ちを掴んだようでした。その後、各チームに分かれて、ジェンガを用いて専攻医が考えたお題に答え、大いに盛り上がりました。低学年の学生には総合診療や家庭医療を知るきっかけになり、学生と指導医の考える医師像の間に、意外とギャップがないものだなと感じ、ワクワクする時間を過ごしました。

午後には、第18回北陸総合診療懇話会を開催しました。現地とオンラインとのハイブリッドで開催いたしました。コロナ禍前後から比較的災害少ないと言われていた北陸でも、規模は違えども災害に見舞われる地域を見聞きし、災害対策をそろそろ本気で考えないといけないという機運が高まってきました。そこで、福井大学総合診療部 林寛之教授から災害医療急性期について、福井大学地域医療推進講座 山村修教授から災害医療とBCP(Business Continuity Plan; 事業継続計画)について、それぞれご講演いただきました。災害現場の緊迫した対応や、行政も交えた多職種連携など、実際の事例を通して緻密にご教示いただきました。その後、各県の災害時の状況や対策を共有し議論しました。震災や水害が発生した当時の対応を発表いただき、そこから災害対策、BCPを作成し始めている状況を共有できました。災害対策は、いざというときを平時から想像し、現実的なものに日々アップデートすることが大切だと感じました。北陸以外の方のweb参加者や、現地参加くださった他県の先生もあり、今後より活性化する予感を感じました。



 総合診療・総合内科センター **「General 道場入門者へのエコー講習会」、「ど〜**

しょう会」を開催しました

イケイケな講師をお招きしての入門者特典！！エコーを制する者は診療を制する！！



毎度おなじみ**人生相談会！！**専攻医たちの成長もうかがえる貴重な時間です！

●石川支部

【活動報告】

第9回 VHJ 機構 臨床研修医・指導医交流会

日時：2023年11月3日（金・祝）13：00～11月4日（土）12時

会場：和倉温泉 日本の宿のと楽（石川県七尾市石崎町香島1-14）

主幹：社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院

講演・グループワーク：「研修医の評価について」「プロフェッショナリズムについて」

講師：高村昭輝先生（富山大学学術研究部医学系医学教育学講座 教授）

R. Eugene Bailey 先生（ニューヨーク州立大学家庭医療研修プログラムディレクター）

VHJ 機構に加盟の20病院が能登の七尾市和倉温泉に集まった。研修医63名、指導医25名の参加があった。

講師に高村先生、ベイリー先生をお招きし、「研修医の評価について」、「プロフェッショナリズムについて」をテーマに、講演、グループワークを行った。研修医同士はお互いの研修内容や研修環境などについて、意見交換をした。



【活動予定】

能登北部4病院 クリニカルラウンド

2024年1月 開催内容未定

2024年2月 開催内容未定



●富山支部

<PF(ポートフォリオ)勉強会>

【10月PF勉強会】

10月のPF勉強会が10月11日、オンラインで開催されました。

前半は専攻医の先生による「EBMの実践」に関するレクチャーが行われました。

症例選びやPICOのpointについて等、PFを記載するうえで重要な点を分かりやすく解説頂き、理解が深まる内容でした。

後半は時間をかけて専攻医のポートフォリオ発表を行いました。

「患者中心の医療」、「未分化な健康問題」が領域として取り上げられ、それぞれのグループでよりよいPF作成を行うべく議論がなされていました。

【11月PF勉強会】

11月のPF勉強会が11月8日、オンラインで開催されました。

前半は専攻医の先生による「チーム医療・ケアの調整や移行」に関するレクチャーが行われました。ケア移行を俯瞰でみる大切さや、Team STEPPSの活用方法など取り上げられました。その先生が救急研修中ということで、コンサルト方法の5Cなどホットな内容も良かったです。指導医の先生からはREDのツールキットなどを教えてもらいました。

後半は時間をかけて専攻医のポートフォリオ発表を行いました。

「多疾患併存」、「EBMの実践」、「障害とリハビリテーション」などが領域として取り上げられ、それぞれのグループでよりよいPF作成を行うべく議論がなされていました。

<臨床研究勉強会>

【第3回臨床研究勉強会】

今年度第3回目となる、とむじぇり専攻医/指導医対象のオンライン臨床研究勉強会を8月31日に行いました。今回はとむじぇり専攻医・指導医の中で研究ネタを温め中の先生方にその内容を発表いただき、より良い研究デザインとしていくためのディスカッションをする「研究のタネ発表会」でした。

日常の診療、活動の中での疑問や改善点をリサーチクエストに発展させ、さらに具体的な研究計画に落とし込んでいくのは短くはない道のりです。

しかし、プログラムで複数の先生方とディスカッションを深めることでさらに「自分は何が知りたいのか」「社会に何が必要か」と考えていく過程はとても実りのある時間となりました。今回ご発表いただいた先生方にはまた今年度を通して計画を練り上げていただく予定です。

【第4回臨床研究勉強会】

今年度第4回目の臨床研究勉強会が10月31日に行われました。今回は「サーベイ研究はじめの一步」と題してレクチャーが行われました。また多施設で行う様なサーベイ研究を富山で行うとしたらどのようなテーマで行うのが良いか、またそのための課題は何か、などについて、議論がありました。サーベイ研究は一見簡単そうですが、質問項目や対象とする集団の吟味をすることが重要だと感じました。

<そのほかのイベント>

【シネメデュケーション 映画を見て”在宅看取り”を語ろう】

11月15日に富山大学でシネメデュケーション 映画を見て”在宅看取り”を語ろうが開催されました。シネメデュケーションとは、シネマ+エデュケーションの造語で、映像を見て教育を行う手法の一つです。今回は医学生6名と研修医2名とが参加し、映画のワンシーンを見て、在宅看取りをテーマに考察をしました。

他の詳しい開催報告内容については、とやま総合診療専攻研修プログラムホームページ内のブログ「とむじぇり通信」に記載されていますので、チェックいただけたら幸いです。

とむじぇり通信 URL ↓↓↓

<http://thecigm.med.u-toyama.ac.jp/info/>

<支部運営についての情報>

● 各県の代表窓口は下記の方々です

三重県；若林英樹、富山県；三浦太郎、石川県；吉岡哲也、岐阜県；森田浩之、愛知県；佐藤寿一、福井県；林寛之、静岡県；井上真智子

● プログラム責任者の会中部ブロック代表；大浦誠

● 中部ブロックの活動に関するご意見等ありましたら下記までご連絡ください。

木村 悦子（中部ブロック支部事務局）e-kimura@med.nagoya-u.ac.jp